レッスン：SPA92

テーマ：14芒星と様々なサイクル

SPA92 KE 2001/MY13/5/01

私の姉妹・兄弟たち、

スピリット、光、火の子供達よ。私たちは常に主、絶対、主の聖性に抱かれています。

前回のレッスンでは14芒星のシンボルの重要性について述べました。

このシンボルは最初の転生の時にLife それ自体から現在のパーソナリティーに与えられます。またその後の各転生の時にもその同じシンボルが戻ってきます。

ですから、それは最初の転生から始まり、それをマスターし終わるまで各転生についてきます。マスターするとは何でしょうか？

**マスターするということは、現在のパーソナリティーが同胞の人間たちの苦しみを背負うことができるようになることであり、それはつまりそれができるステートに現在のパーソナリティーが到達することです。**

そのステートは現在のパーソナリティーの自己実現と呼ばれます。言い換えれば、現在のパーソナリティーの潜在的可能性の大きなサイクルをマスターすることです。それはまたキリスト意識とも呼ばれます。

　ですから、このシンボルはとても重要です。このシンボルの最も重要な側面は、内側のポイントです。過去のレッスンで述べたように、最初にこれらの内側のポイントは影として初めの2つのサイクルに投射されます。それらは影ですが、それでも現在のパーソナリティーにとって非常に痛みを伴うものです。そして最初のサイクルは2番目のサイクルにおけるような痛みは伴いません。なぜなら、現在のパーソナリティーが最初のサイクルにいる間は現在のパーソナリティーが意識を表現することが少なく、二元性もあまり強くありません。しかし2番目のサイクルになると、痛みはずっと強くなります。そして二元性もより強くなります。そしてパーソナリティーは罪悪感を体験し始めます。しかし、罪悪感の意識が創造するものを避けることはできないので、現在のパーソナリティーは多くの苦痛に満ちた体験を経ることになります。

　真のゴルゴダのコースは以前のレッスンで説明したように、現在のパーソナリティーが3番目のサイクルにいる時にスタートします。そのとき初めて、このシンボルが現在のパーソナリティーの頭に置かれるようになります。それ以前でもそれは頭にあったのですが、ポイント（＊先端）の影だけが皮膚に触れて肉に入っていたのです。3番目のステージでは、実際のポイントが触れて、皮膚に入ります。

　それは実際もっと痛みが伴いますが、しかし現在のパーソナリティーがいわゆる意識的意識のセルフエピグノシスを現しているので、意識的に生き、痛みを生み出すものを多く避けることができます。ですから、そのサイクルは非常に困難なものですが、現在のパーソナリティーにとってそれほど痛みのあるものではありません。

　必要な手段全てを得るためには（手段とは単に知識だけではなく、経験的知識をも意味します…それによって現在のパーソナリティーが意識から、つまりLife それ自体から多くを現すことができるように準備するためにです）、そのサイクルでは多くの努力が必要となります。意識とLife は一つです。意識から多くを現すことにおいて、このサイクル、3番目のサイクルをマスターし、そして4番目にサイクルに入ろうとする現在のパーソナリティーは、エゴの様々な側面を殺すことができるのです。

　4番目のサイクルには最も大きなミステリーの一つがあると前に言いましたが、それは火の洗礼の始まりです。

ですから、3番目のサイクルで行うことがたくさんありますが、しかしそれは2番目のサイクルほど痛みを伴うものではありません。

そして現在のパーソナリティーが4番目をマスターすると、自動的に5番目のサイクルが与えられます。

Page2

実際に何が与えられるのでしょうか？それはノエティカルなサイクル、ノエティカルなリングです。それが14芒星の外側のポイント（＊先端）の周囲に置かれます。それは現在のパーソナリティーがそれをマスターしたことを意味します。

（＊そのレベルでは）　14芒星は成長進化に向けてはいかなる役目も行わず、もはや進化へと導くステーションをも示しません。14芒星が進化のどのステートを示そうとも。自己実現した現在のパーソナリティーは自分の選択に応じて生きていくことができます。それはつまり、現在のパーソナリティーは自分のバイブレーションを下げて、14芒星の特定のレベルにいることができる、という意味です。レベルとは何でしょうか？それは進化成長における特定のバイブレーションを示すステーションです。

　それはどのように行われるのでしょうか？各サイクルには14のステーションがあるといいましたね。ですから14のステーションは１から4までの各サイクルにあり、5番目のサイクルにはありません。同時に各サイクルには助けの手段として、その特定のサイクルをマスターするための助けとして、それらすべてのシンボルがあります。それらは現在のパーソナリティーに与えられた助けです。

　今助けているのと同じ助け、それらはまたLife が影（それははLifeの特質を表現しませんが）を表現するための助けとなりました。その特質を表現しないのはLife ではなく、その影であり、それが投射されるのです。Lifeによって活性化される影であり、それはLife それ自体ではありません。それについては明確に理解しておく必要があります。

Life は決して制限ある現れのなかに入ることはできません。

ですから、様々なサイクルをマスターするための助け、それらの同じ助けはかつてLife の特質を現していないステートに影が入るのを助けたのです（そして現在のパーソナリティーはLifeの特質に関しては無知を現しています）。それはどのようにして行われたのでしょうか？それは上からスタートし、下へと動きました。上からシンボルが下へと来たのです。

潜在的可能性のサイクルをマスターするのとは反対の方向です。意識としてあなた方はそれら3次元のシンボルの底面にいて、あなた方がするべき努力とは、上まで昇ることです。意識としてあなた方がこのシンボルの上にいるのを見出すことです。つまり、一番上にある頂点に到達することです。前は上から下へ、だったのですが、これが起きると、影を現そうとしたスパークは、意味を超えたところ、時間・空間の意味さえも超えたところにありました。ですから、影としてのそのスパークは一瞬のうちにそれら全てのサイクルを通過しなければならなかったのです。実際にどんな努力もなしに。そして今、制限ある現れのなかに影があるのです。

　ですから、助けとしてのシンボルがあり、それらは現在のパーソナリティーが14芒星が現す様々なステーションを通過するのを助けます。**14芒星は助けではなく、それは諸宇宙における全ての人間が通らねばならない道なのです**。

Q:14芒星のポイント（＊先端）が実際に皮膚に突き刺さるのは3番目のサイクルですか？

K:そうです。それはキリストがかぶった茨の冠と同じです。14芒星はまた、Life の特質が表現されていないステートに生まれるという、誕生のシンボルでもあるのです。言い換えれば、**誕生するのはLife の影です。しかし、影があるためには、その影を創造する何かが必要です。無から影は生じません。そしてその影を創造するのがLifeそれ自体なのです。**現在のパーソナリティーはLifeそれ自体によって活性化されています。活性化をLife の息と間違えるべきではありません。それは完全に異なったものです。活性化される（＊enliven）

とは、スパークが、何であれ活性化されているもののなかにあることです。

Q:Lifeとは影を創造するものだと言いますが、Lifeとは理解を超えたものであり、影は実存の諸世界なのですよね。

K:実存の諸世界は影です。実存の諸世界、それは幻想、二元性の諸世界です。スーパーサブスタンスという手段が使用されるとき、Life は純粋なLife として現れます。それゆえに、Life が完全に表現されるためには、手段としてスーパーサブスタンスが必要だと述べたのです。さもないと、マインドの低次のバイブレーションのなかでは、サブスタンスの中においてさえ、Lifeは完全には表現されません。サブスタンスのバイブレーションはLifeの本質を完全に現すことができません。そして完全に現す、と言う時、サブスタンスを通じてLifeが表現されるとすると、サブスタンスは完全に燃え尽きてしまいます。サブスタンスはLifeの純粋なバイブレーションに耐えることができないからです。Life のバイブレーションに耐えることのできるマインドの唯一のバイブレーション、それは私達がスーパーサブスタンスと呼ぶ海です。同調(attunement)に使用されるのはそれらのバイブレーションです；そこではLifeにとっていかなる制限もありません、形でさえもありません。形はそこにありますが、それはイデアとしてのフォームです。ですからLifeにはそれらの制限はありません。

Page3

確かに低次のバイブレーションには形という制限はまだあります。現れの手段としてスーパーサブスタンスを使用するとき、もはやそこには二元性はありません。いかなる意味をも現すことはなく、思考も感情もありません。いかなる感情体、思考体もありません。ですから感情体、思考体はサブスタンスと超物質に属しますが、スーパーサブスタンスにはありません。

ですから、スーパーサブスタンスは現在のパーソナリティーが自己実現に到達したときにのみ使用されます。そしてスーパーサブスタンスは現在のパーソナリティーに、肉体から意識を分離する能力を与えます。なぜでしょうか？なぜなら、その現在のパーソナリティーはそれら全ての低次のバイブレーションをマスターし、また他の全てのバイブレーションが入っているスーパーサブスタンスのバイブレーションをもマスターしたからです。

各サイクルにはそれ自身のゴルゴダがあります。言い換えれば、現れの各ステート、そして、現れのステートというときそれはまず本能的意識のセルフエピグノシス、次は潜在意識的意識のセルフエピグノシス等ですが、それらの現れの各ステートにはそれ自身のゴルゴダ、14のステップがあります。

最初の2つのサイクルに関しては、それらは影であると言いました。なぜなら、実存の諸世界にあるものは全ては影だからです。自己実現した現在のパーソナリティーにとって、それは超意識的に影を生きるのですが、それでもそれは影です。なぜなら、Lifeのスパークは肉体を使用する時には表現されないからです。Lifeのスパークはサブスタンスを使用している時でも完全には表現されません。ですから、自己実現した現在のパーソナリティーはLifeのスパークによって使われる時には、影を創造するために様々なサイクルを使用することになります。

自己実現した現在のパーソナリティー、は超意識的に助けとしてそれらの手段を使用して、影を創造します。そのように行われます。何であれ諸法則によって定められていることを避けることはできないのです。勿論、今や何であれ諸法則が提供しているものを超意識的に使用することができるのですが。もし自己実現した現在のパーソナリティーが同調を使おうとする場合、意識が完全に肉体のなかにある間は同調を使うことはできません。超意識の純粋な投射を現す必要があります（創造するのではなくて現すのです）。そしてその現れを通じて、同調を現すことが可能となるのです。

勿論、それは自動的に行われますが、それを行うには神聖なる理由が必要です。影を助けるためにただそれを行うなどということはありません。進化成長に向けて努力する人々を助けるために行われます。勿論、超意識的に。現在のパーソナリティーはどれほどその現れのバイブレーションを下げていようと表現されます；超意識が表現されます。肉体はそれらのバイブレーションに耐えることができますが、同調のバイブレーションを耐えることはできません。言い換えれば、五感が使用されている時には、肉体はそれらのバイブレーションに耐えることができるのです。それを明確にしましょう…イエスキリストの身体は何からできていたか想像できますか？私たちの身体と同じですか？違います。しかし、現象的にはそれは物質でしたが。

Q:イエスキリストの肉体は痛みに反応するように作られていたのですか？

K:イエスキリストの場合には、彼が現していた意識のゆえに、彼は特別な身体を持っていました。転生のサイクルを経ていく一般の人と同じではありませんでした。

彼は受け入れられるように全てを作り、何であれ彼が与えたいと望んだものは実現しました。その体験は多重性のワンネスのなかにありました。それについて考えてみなさい。彼は全体、全てを意味し、その全体のなかに彼が行った体験があるのです。それゆえ、彼はまさに人間が弱点として経験するものさえも示していたのです。　彼は人間が最初から最後まで経なければならないもの全てを示すことができたのです。

　彼は痛みを全ての人間を生かす海として感じていました。人間が痛みを感じている時、その痛みを感じているのは実際には主なのです。彼はLife の海です。彼は諸宇宙における全ての人間を生かすLifeのスパークです。人類が何かを経験しているとき、実際に彼はそれを経験しているのです。人類の全ての経験は彼が経験しているのです。ですから、経験に関しては、全ての経験は彼のなかにあります。それらが彼のなかにあるスパークの中にあるわけではありませんが、しかし彼は全体を意味します。絶対存在のワンネスを彼自身のなかで表現しているのです。

Page4

ワンネスは全てを知っており、ワンネスとして全ての経験がありますが、しかしワンネスを創造する粒子には経験がありません。それは創造界に関するものです。人々が「知っている」神とは知識を超えたものであり、全てを知っています。しかし神、絶対存在が「話す」時には、神は多重性として話すのではなく、一つ（一人）として話します。多重性、多様性を現す時には（それはワンネスのなかにおける無数のモナドセルフですが）、それら多様性にはワンネスのような経験はありません；放蕩息子の例え話はそれについて語っています。

ですからイエスキリスト・ロゴスは普通の人間として自らを現す必要があったのです；それによって人々が彼を理解し、受け入れ、そして彼が全ての人間にその人間が現すべきものを示すためにです。そして全ての人間が本来現すべきものを現すためには、何を達成しなければならないか、を示すために。それゆえに現在のパーソナリティーとしてのイエスキリスト・ロゴスがあるのです。

Q:それでは彼が現前（＊肉体をもって存在したこと）したことは劇場のようなものだったのでしょうか？つまり誰かを説得するために。

K:しかし、それが彼の現前に関する事実です。それに向き合いましょう。彼は助けなければならなかったのです。彼は普通の人ではありません。彼は制限ある現れのなかに入ったことは一度もありません。彼は過去において、現在において、そして未来においても常に人間の絶対意識であり、イエスキリスト・ロゴスなのです。　諸宇宙における人類の絶対意識です。人類のというよりむしろ、現れの諸世界における全てです。

しかし、彼はいかにして、啓発に向けた努力というガイダンスを認識できる可能性を人間に与えることができたのでしょうか？唯一の方法、それは人間として生まれることでした。なぜなら、人間のイデア・フォームを提供するのは彼だからです。そのフォームを与えた彼がそのフォームを使用できないというのでしょうか？

また次のことを覚えておく必要があります：モナドとしてのあなたはあなた自身の経験を感じます。彼は諸宇宙における全ての人間の経験を感じるのです。

Q:しかし肉体的苦痛もですか？

K:しかし痛みは肉体的ではありません。現象的にはそうですが。痛みを肉体的なものと解釈するのは人間の無知です；それゆえに、あなたに痛みがあるとき、何か他のものにフォーカスして痛みを忘れようとします。脳は前には痛みとして解釈していたものを、もはやそのように解釈しなくなります。さもなければ、ヒーラーはいかにして他人の痛みを背負うことができるでしょうか？それについて考えてください。勿論、主は痛みを経験していました、彼自身の苦しみのみならず、非常に悪い時（＊time）を「彼に与えていた」全ての人間の苦しみをも。

彼はその後に人々が経験しなければならなかった結果さえも体験していました。それゆえに彼は「天なる父」呼んだのです；実際に彼が呼んだのは彼自身だったのです。それについて考えてみてください。しかし、人々の前では彼は自分自身を人間として、現象的に人間として、何であれ人間として現れているものとして、神と切り離す必要があったのです。

ですから、彼の中には全てがあります。全ての経験、影としての無知のあらゆるレベル、それらがあります。実際彼の体には「苦しみ」があります。私たちが彼について考える時は、全体について考える必要があります。彼の存在のステートを表現する言葉はありません。私たちは彼の体の上に属するのです。何であれ私たちに起きているものを、彼もまた多様性（多重性）のワンネスとして経験しているのです。多くの人は神は一つだと考えます。絶対存在は一つです。しかしそれは多重性（多数性）のステートにおいてです。

Q:もし14芒星が一つのサイクルから次のサイクルに移る時、別のサイクルがある目的とは何ですか？

K:14芒星は実際一つですが、そのサイクルのワンネスのなかに様々なレベルがあります。ポイントは影として中心に向けられています。そしてその影は次のサイクルではより小さくなります、そのサイクルが内側のポイントに触れるまで。さて、内側のポイントはある特定のサイズになっています。このセッションの最初にそれについて話したと思いますが。ですから、このシンボルは実際には一つです。しかし、ある特定のレベルをマスターする各サイクルには14芒星があります；そしてマスターするというとき、意識からより多くを現すことを意味します。繰り返しますが、意識とはLife です。「あなたはそれを意識していますか？」と尋ねる時の意識の意味とは異なりますが。誰かが何かについて意識しても、それは高い意識レベルを現しているわけではありません。

Page5

ですから、何であれ様々なサイクルをマスターすることによって、より多くを意識から、スパークから自分を現すのです。実際Life それ自身からより多くを現すようになるのです。影は常により小さくなります…現在のパーソナリティーとしての自分をスパークが立っていると見出すようになるまで、その結果影を作り出すことがなくなるまで。言い換えれば、光が周囲のあらゆる方向から来て、もはや影を生み出すことがなくなるまで。ですからLifeのスパークが影を創造し、常にその影に付き添います。さもないと、影は消えてしまいます。

Q:何が影を時間・空間の中に移動させるのですか？

K:Life のスパークです。

Q:しかし、Life のスパークにはアガピ、汎ソフィア、絶対英知があります。

Ｋ：それは関係ありません。なぜなら、結局神の黙想による仕事が達成されるのはこのプロセスを通じてだからです。影の背後には神、ディバインの目的があるからです。それゆえにあるレッスンで、無知さえも過小評価してはいけないと述べたのです。なぜなら、無知さえも私たちが経験し、経なければならないものだからです。それさえもディバインの黙想だからです。

現在のパーソナリティーの自由意志がLifeそれ自体から与えられています…それによって私たちが全員異なった様々な経験をするためです。もしこの自由意志がなければ私たち全員が同じ経験を経ることになります。自由意志なくして個人の創造というものがあるでしょうか？ですから、自由意志が影に与えられる必要があるのです。

Q:人が自己実現すればするほど、苦しみが少なくなる、あるいは苦しみがなくなると言えるのでしょうか？

K:自己実現した現在のパーソナリティーは、そのバイブレーションを下げた時には、原因・結果の法則の結果を蒙ることになります。しかし、その意味は異なります。サイキカルによってノエティカル体に与えられる意味は異なります。

Ｑ：ステーションが異なれば意識も異なる、とあなたは言いましたね。なぜなら、私たちがより多くアークエンジェル的状態を現すようになるからです。意識はアークエンジェル的状態に繋がっているのですか？

Ｋ：勿論です。私達が意識から表現すればするほど、それだけ多くアークエンジェル的状態から現すようになります。それが実際に起きていることです。そして私たちのアークエンジェル的状態は私たちに人間の理想的なフォームを与えてくれ、そのフォームは全ての人にとって同じです。私たちの兄弟であるアークエンジェルを過小評価すべきではありません。なぜなら、彼らはある特定のエピグノシス（＊内側から来る知識）の下で働かねばならないからです。

EREVNA/SPA92/KEMY/01